

## 福岡座長の第4回有識者会議終了後の記者会見（要旨）

第4回有識者会議終了後の記者会見における、「座長が『下流影響 軽微で一致』」とした報道に関する検証

以下、座長の発言録からコメントを抜粋

- ・これまで出た課題を踏まえ、今回は特に下流の扇状地の問題について議論をした。その結果として、見えたか見えないか、これからさらに課題は残っているが、少なくとも方向性が。こういうことの問題に対して、こういう説明ができますよねということが、だんだんわかってきた。もうちょっとこう考えたらいいよ、もう少しこういうことがないと本当のことは分からないという議論もあって。だからそういう意味では、よくわかるようになったとか、見えたとかいうように言い切ることはできないが、これからこういうことを調べた結果として、それを今度はまとめてみる方向にしたほうが良いのではないかと言うことを、私は感じた。
- ・なにが決まったということではないが、正しいことはなんなのかということについて議論ができる土俵ができたということが、方向性が少し見えてきたということ。最初のときは、まずこれで行きましょうと言ったけど、みんなバラバラだった。
- ・大井川の持つ大きなポテンシャルからして、下流の水利用に対する影響というのは、大きくないという点においては、かなり委員は皆、そうだね、という方向があったと。決まったとか、こうだ、っていう断言についてはない。これからまだやっていくこともありますから。だけどそういう合意行為に近い形になった。
- ・水利用については、流域の何委員会っていいましたか、水利の関係の方が努力をして、お互い譲り合い、ルールの中で、努力されている。破綻を来たさないようなやり方になっていることがだいたいわかると思います。そういう点で方向性として見えてきた一致したということ。